古きよき函館へ。人の温もりに触れる小さな旅、ご案内です

HO ほ

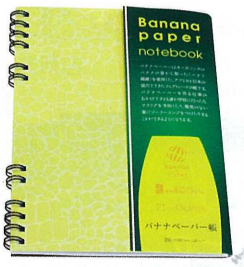
2013
6月号
Vol.67
定価580円

函館特集

初めてなのに、どこか懐かしい

函館ノスタルジー

道内温泉無料・半額日帰り入浴57軒



上.バナナペーパーで作ったノート980円も制作。現在は三省堂書店神保町本店のみの扱いだが「いつか多くの人の手にも届けられるようになれば」
中.点字を入れるサービスも(1575円追加)。授産施設の職員が手作業で1枚ずつ作り上げる
下.「バナナペーパーのおかげで村の学校に通える子どもも増えたそうです。日々自分が使うもので、現地の生活が改善されていると聞くとうれしくて」。現在フェアトレードの認定を申請中。紙が認証された例はないため、受理されれば世界初となる

つるりと硬質なペットボトル、軟らかくて温かみのあるバナナ、素材によって触り心地はさまざま。「選び方に個性がでますね。中には数種の素材をシャッフルして使う方がいらっしゃったり。事業を始めた方には船出の意味で帆布の紙をお薦めしたりします」

バナナが名刺に!?

[エコ名刺]

物語を持つ名刺が、紙と人と世界を繋ぐ

バナナ、トウキビ、小麦わら、帆布、芝生…実はこれ、すべて名刺用紙の原料である。どれもが今まで廃棄されていたごみ。丸吉日新堂印刷は不要物を仕事の必需品である名刺に再生させる。

「きっかけは、大量に捨てられるペットボトルをリサイクルしたいという飲料メーカーからの依頼でした」と営業部課長の長尾利華さん。このペットボトル名刺を皮切りに、徐々に他にはない再生紙でのエコ名刺づくりが始まった。現在取り扱う紙は15種類にも及ぶ。すべてがどこでどのように使われ、名刺という第2の人生を得たかという生い立ちを携えている。

もっとも大きな物語を背負っているのが、バナナ名刺だ。実を収穫した後無用の長物になる茎の繊維が紙へと生まれ変わる。使うのはザンビア産。「この事業で村に雇用が生まれて、学校に行ける子も増えました。そんなお話もできるので、名刺交換だけで話題が広がるんですよね」。小さな紙片のエコ名刺が人と人を出会わせ、さらに人と世界を繋いでいるのだ。

丸吉日新堂印刷
札幌市豊平区平岸6条12丁目11-2　電話：011・837・9636　※名刺の注文は0120・389・636、またはwww.nissindou.co.jp　からも可能